

# 茨城労働局長が「ベストプラクティス企業」を職場訪問 ～三共貨物自動車株式会社、株式会社カスミ～

澤口浩司 茨城労働局長は、11月26日に「過重労働解消キャンペーン」の一環として、本年4月から時間外労働上限規制の適用を受けたトラック運送業、また共に長時間労働の削減を始めとする「働き方改革」に積極的な取組を行う着荷主を対象に、ベストプラクティス企業への職場訪問を行いました。

○ 訪問日：令和6年11月26日（火）

○ 訪問先：三共貨物自動車株式会社 岩瀬センター（桜川市御領1-19）

## <トラック運送業>

### 三共貨物自動車株式会社

（本社：筑西市横塚1357-6）

- ・業種：自動車運送取扱事業
- ・設立：1944年（昭和19年）
- ・従業員：350名

## <着荷主>

### 株式会社カスミ（本社：つくば市西大橋599-1）

- ・業種：食料品、家庭用品、衣料品等小売業
- ・設立：1961年（昭和36年）
- ・従業員：約16,000名



## 働き方改革の取組

### ○トラック運送業者による「共同配送」網の構築（裏面に詳細）

三共貨物自動車では、カスミから借り受けた配送センターを各スーパーへの中継拠点として、県内外から搬入されるカスミを含めた各競合量販店の荷を預かって一括保管。配送センターから各量販店へ地元の運送業者が「共同配送」することで、自社を含めた各ドライバーの拘束時間短縮を実現している。

### ○若手ドライバーの採用と育成

軽自動車による配送を導入し、若者を中心に新規ドライバーを積極的に採用。その後の中型、大型ドライバーの育成につなげている。

### ○女性ドライバーの積極的採用

女性が働きやすい時間帯の勤務形態を設定し、女性ドライバーを積極的に採用している。

### ○障害のある労働者の積極的雇用

配送センターの主力の社員として障害のある労働者を積極的に雇用している。



共同配送の説明を受ける澤口局長ほか



三共貨物自動車がかすみから借り受けた配送センターの全景



配送センター内での荷さばきの説明を受ける澤口局長と勝家茨城運輸支局長（写真中央と右側）

## 働き方改革の主要な取組内容

### 複数の運送業者による独自の共同配送網の実現

三共貨物自動車は、カスミの配送センターを借り受け、各スーパーへの配送の中継拠点を設定している。この配送センターには、カスミ以外の競合量販店の荷を積んだトラックが他県から立ち寄り、三共貨物自動車では、この競合量販店の荷をカスミの協力を得て配送センターで一括して保管。三共貨物自動車を含む地元の運送業者（約20社）が各量販店へそれぞれの荷を「共同配送」することとした。



この取組によって、県外からのドライバーは、県内の各量販店のそれぞれで荷下ろしすることなく戻ることが出来、拘束時間の削減につながる。三共貨物自動車としても、1車2人体制を中心として拘束時間を削減。

#### <取組の結果>

共同配送によって効率的な車両運行を実現し、ドライバーの労働時間が最大で6時間短縮。

また、搬入する県外トラック運送業者相互の連携が広がり、配送網への参加企業は100社以上に増加。1車両当たりの積載率が向上し、ドライバー不足に対応。

#### <労働局長のコメント>

労働力人口が減少する中で、運送業者と着荷主、また事業者間が相互に連携した対応は重要なポイントと考えます。自社のドライバーに留まらず、共同配送会社のドライバーの労働時間削減にもつながる非常に良い取組です。労働局としても、こうした取組について広く紹介していきます。